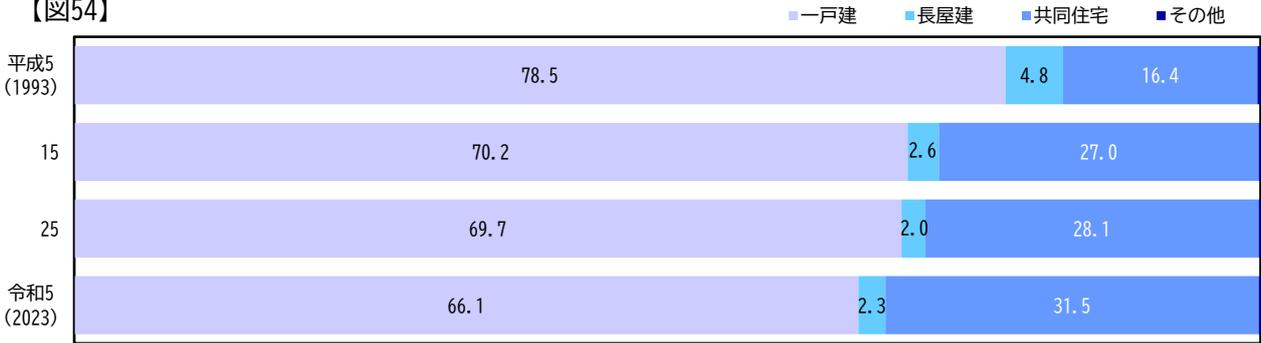


生活・環境

住宅の建て方別割合の推移

【図54】

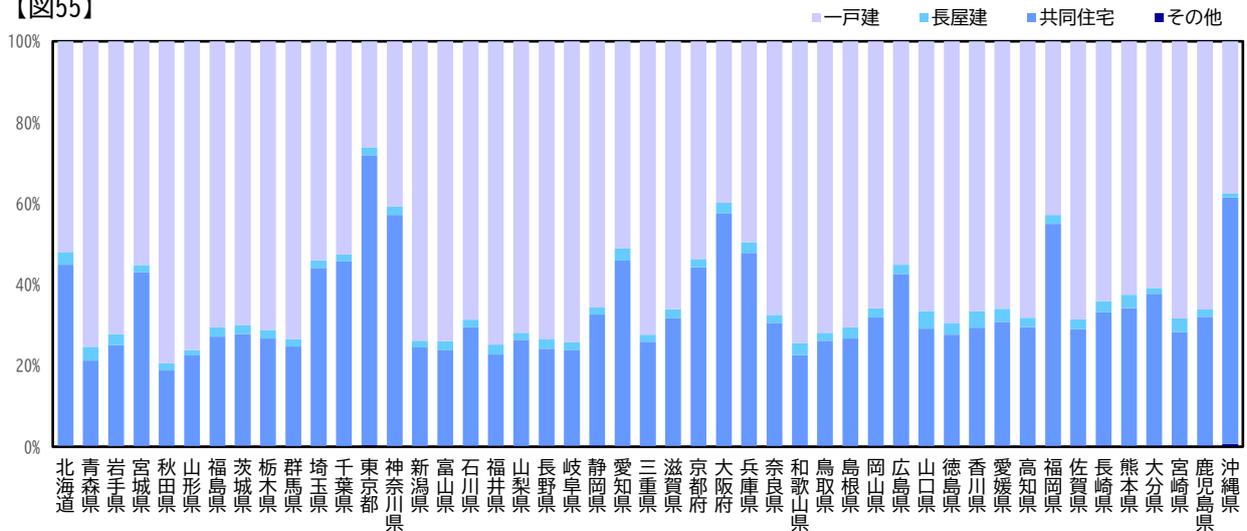


※「その他」の数値の表記は省略しています。

「住宅・土地統計調査」 総務省統計局

都道府県別の住宅の建て方別割合

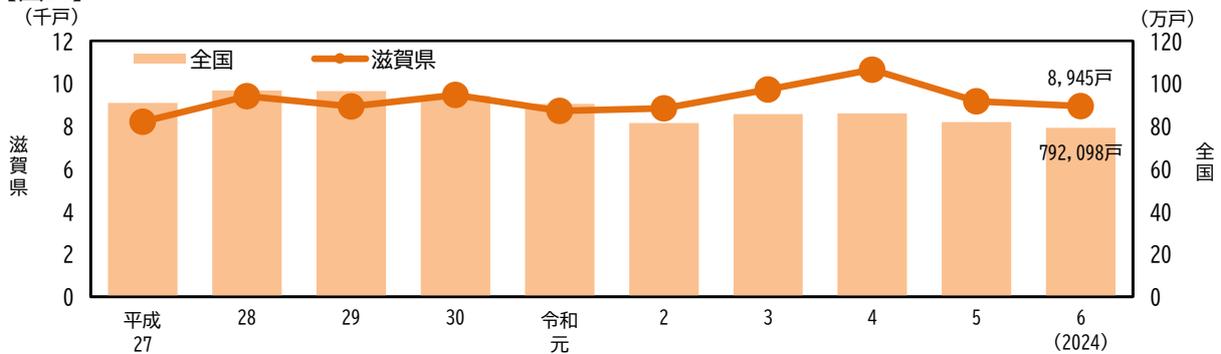
【図55】



令和5年「住宅・土地統計調査」 総務省統計局

新設住宅着工戸数の推移

【図56】



「建築着工統計調査」 国土交通省

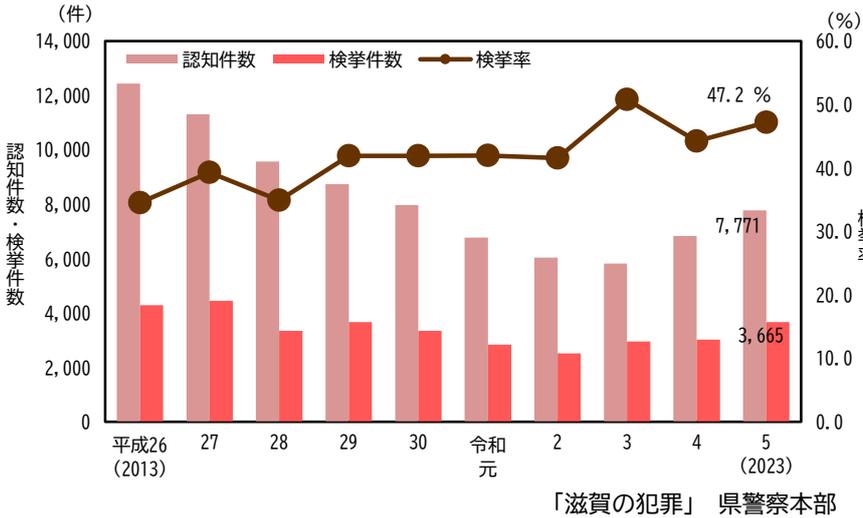
都道府県別の住宅の建て方別割合で、一戸建の割合が最も高いのは秋田県で79.4%、長屋建は山口県で4.3%、共同住宅は東京都で71.6%であった。【図55】

令和6年に着工された滋賀県の新設住宅の利用関係別の内訳は、持家が3,762戸、貸家が3,488戸、給与住宅が47戸、分譲住宅が1,648戸であった。

給与住宅とは、会社、官公署、学校等がその社員、職員、教員等を居住させる目的で建築するものである。【図56】

■犯罪件数

【図57】 犯罪の認知・検挙件数（刑法犯）



くらしの数字

人口千人当たり
警察官数
1.65人

全国46位
(令和5年)

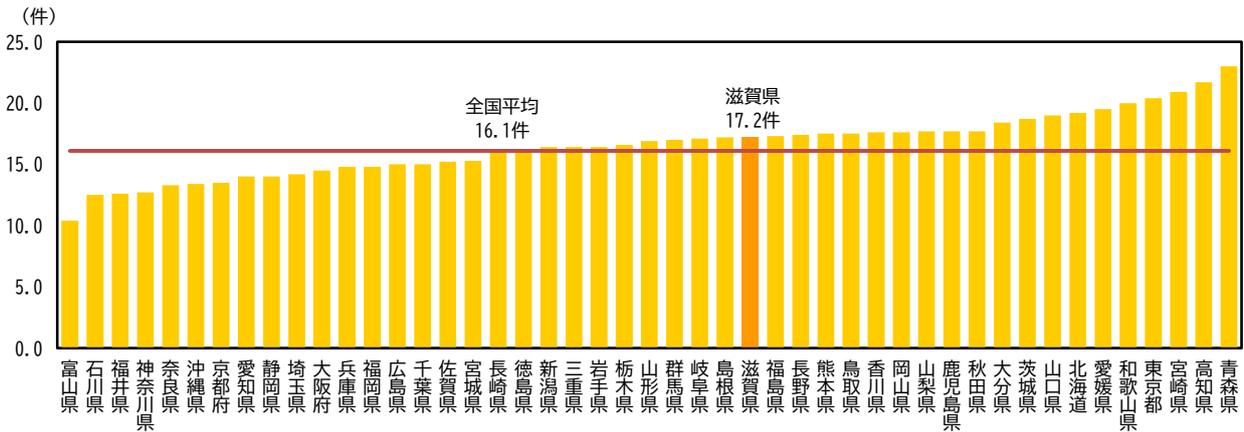
全国1位 東京都 3.13人
 全国2位 京都府 2.60人
 全国3位 和歌山県 2.46人
 全国45位 宮城県 1.68人
 全国47位 埼玉県 1.60人

全国平均 2.09人

「統計でみる都道府県のすがた2025」

■建物火災出火件数

【図58】 (人口10万人当たり)



くらしの数字

震度1以上を観測した地震
11回
(令和5年)

「滋賀県の地震」
彦根地方気象台

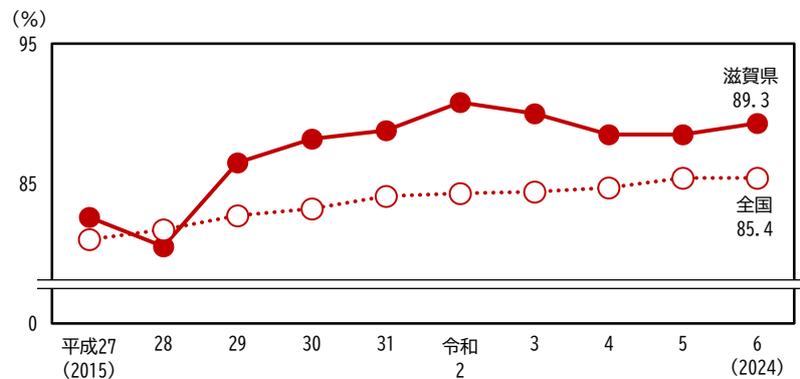
くらしの数字

救急活動
『出動件数』75,766件
『搬送人員』69,894人
(令和5年)

「令和6年版 消防白書」
総務省消防庁

■自主防災組織活動カバー率*の推移

【図59】 (各年4月1日)



* 自主防災組織活動カバー率
= 自主防災組織がその活動範囲としている地域の世帯数 ÷ 県内世帯数
「消防白書」 総務省消防庁

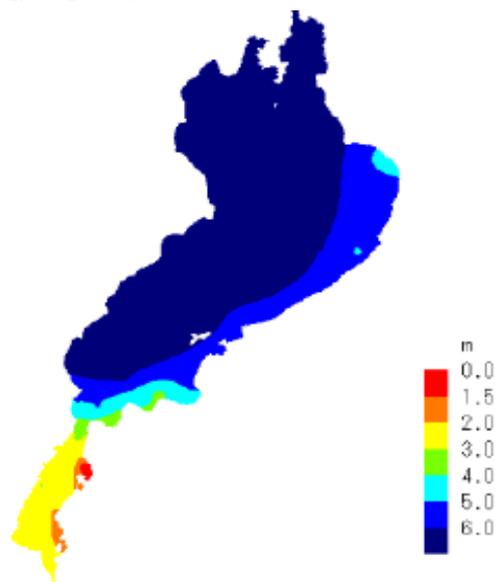
60年前の昭和40年は検挙率が95.4%であったが、以後緩やかに低下傾向をたどり平成13年には18.0%となった。平成14年からは、ほぼ上昇に転じている。【図57】

令和6年の自主防災組織活動カバー率の滋賀県の全国順位は25位。
全国1位は兵庫県で98.4%。同県は過去8年連続で全国1位。【図59】

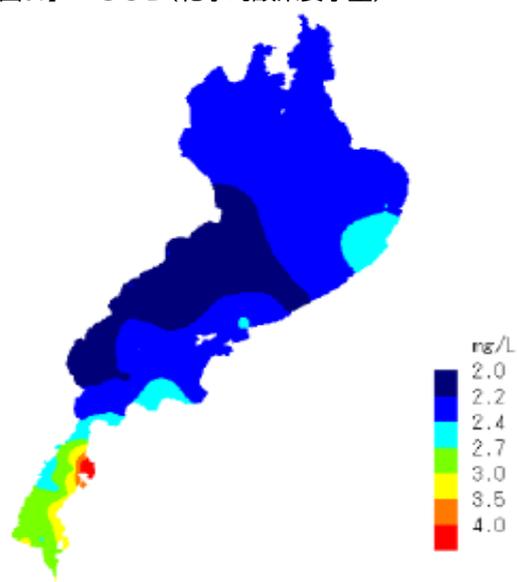
琵琶湖の水質状況

透明度、COD、全窒素、全りん の平面分布(令和5年度の年度平均値)

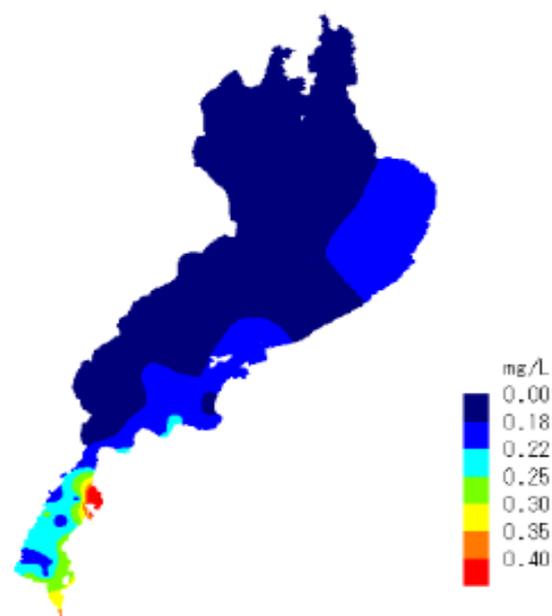
【図60】 透明度



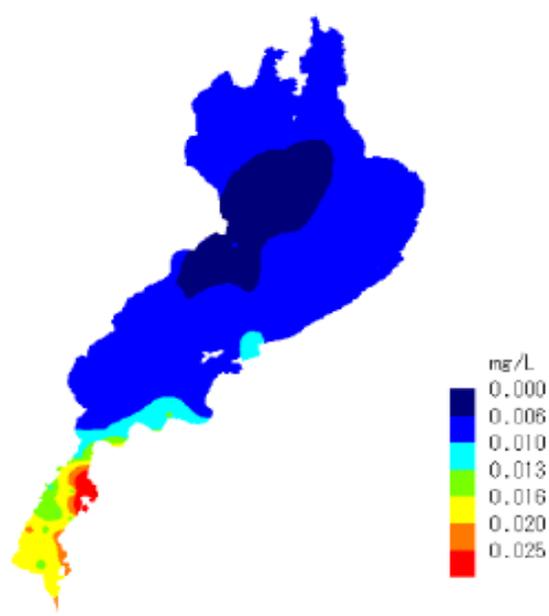
【図61】 COD(化学的酸素要求量)



【図62】 全窒素



【図63】 全りん



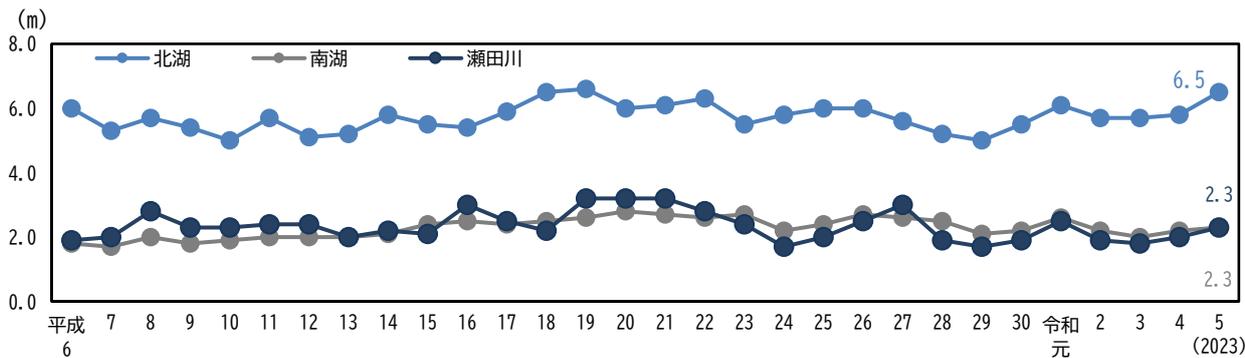
「滋賀の環境2024」 県環境政策課

琵琶湖水質の平面分布をみると、北湖中央部から北西部は他の水域に比べ、透明度が高く、COD(化学的酸素要求量)、全窒素、全りんの値が低くなっている。

一方、南湖(特に東部)では地形や人間活動などの影響により、透明度が低く、COD、全窒素、全りんの値が高くなっている。【図60】 【図61】 【図62】 【図63】

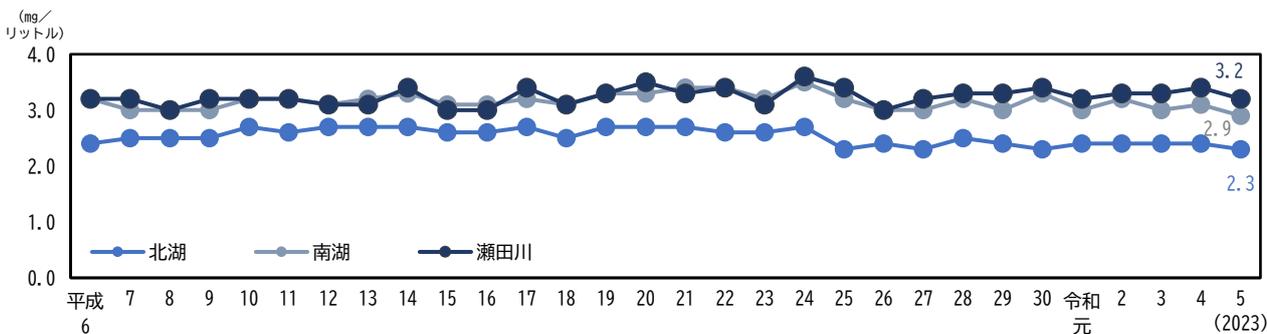
透明度、COD（化学的酸素要求量）、全窒素、全りん の経年変化

【図64】 透明度(平均値)



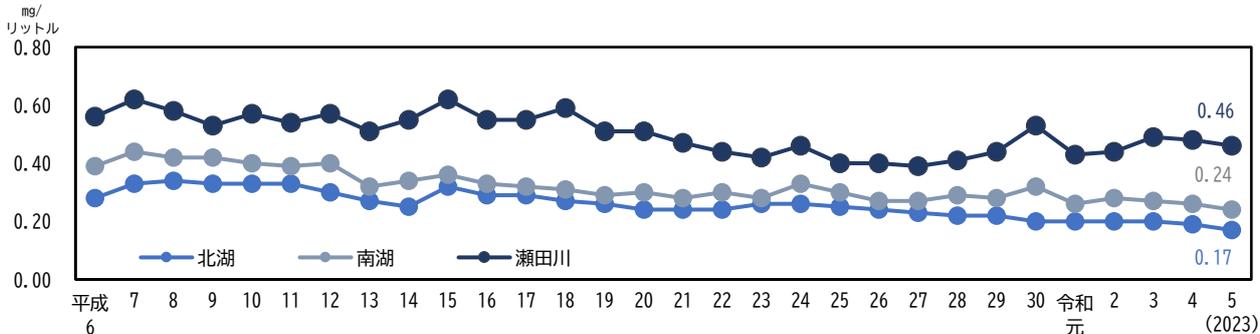
「滋賀の環境2024」 県環境政策課

【図65】 COD(化学的酸素要求量)(平均値)



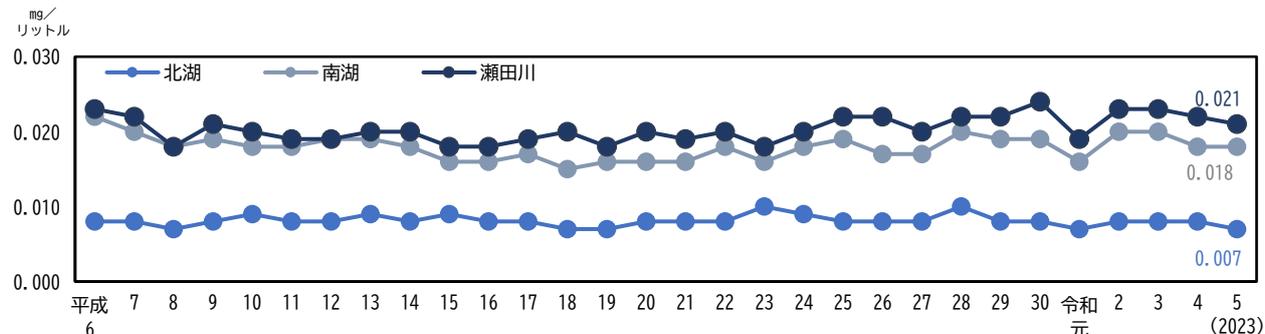
「滋賀の環境2024」 県環境政策課

【図66】 全窒素(平均値)



「滋賀の環境2024」 県環境政策課

【図67】 全りん(平均値)



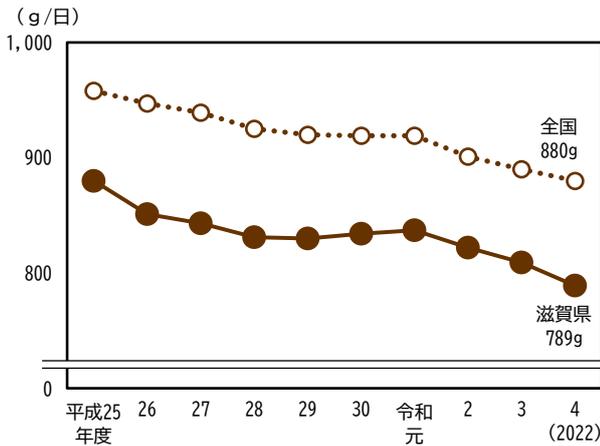
「滋賀の環境2024」 県環境政策課

透明度は、真っ白な透明度板を沈め、どの深さまで透明度板が見えるかで測定する。
 グラフでは平成19年の北湖6.6メートルが最高値。
 透明度の高さで有名な北海道の摩周湖の2024年の数値は21.18メートル。【図64】

CODは、水中の有機物と酸化剤を反応させて汚れの物質の量を図った値。
 5mg/リットルぐらいまでが魚が棲みやすいといわれている。【図65】

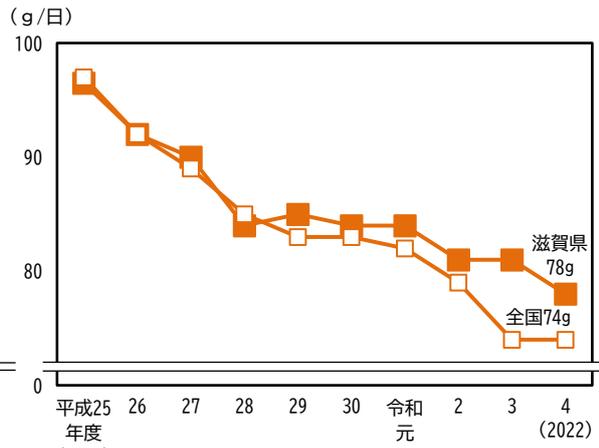
■ごみ排出量と最終処分量

【図68】1人1日当たりごみ排出量の推移



県循環社会推進課
「一般廃棄物処理実態調査結果」 環境省

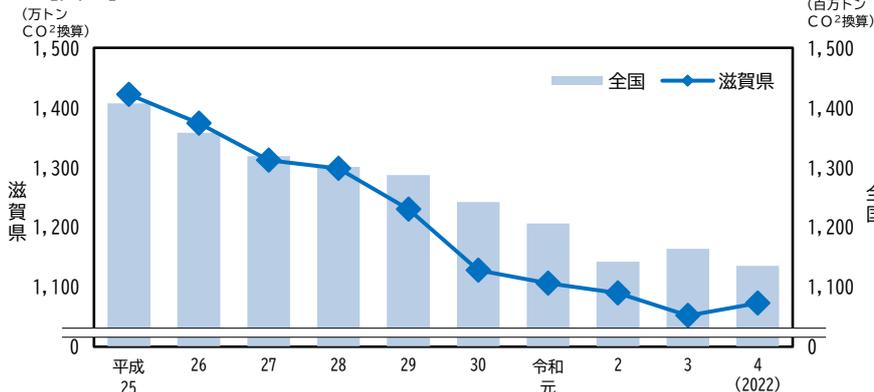
【図69】1人1日当たり最終処分量の推移



県循環社会推進課
「一般廃棄物処理実態調査結果」 環境省

■温室効果ガス総排出量の推移

【図70】



※ 各年度の温室効果ガス総排出量については、各温室効果ガスの排出量に各ガスの地球温暖化係数を乗じ、それらを合算している（二酸化炭素換算）。

「2022年度(令和4年度)の温室効果ガス排出・吸収量(確報値)」 環境省
「滋賀県域からの温室効果ガス排出量(2022年度)の実績」 県CO₂ネットゼロ推進課

くらしの数字

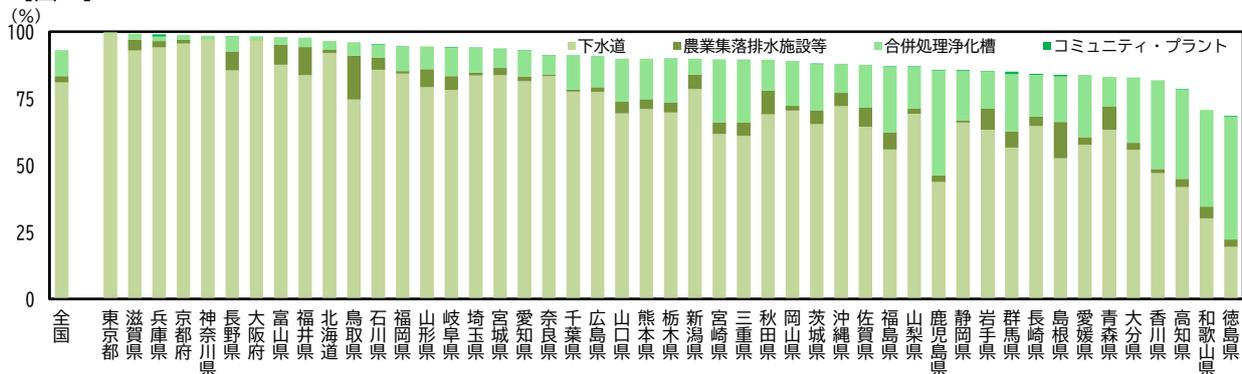
一人当たり
公園面積

9.3㎡/人
(全国平均 10.8㎡/人)

「都道府県別一人当たり
都市公園等整備現況」
国土交通省
(令和4年度末)

■汚水処理人口普及率*

【図71】



* 国土交通省、農林水産省、環境省が各々所管する下水道、農業集落排水施設等、浄化槽等の汚水処理施設の処理人口を調査し、総人口に対する割合で表した統一的な指標

国土交通省、農林水産省、環境省 (令和5年度末)

滋賀県の令和4年度(2022)の1人1日当たりごみ排出量は少ない順で全国2位。
市町別にみると、最も少ないのは愛荘町で642グラム。【図68】

最終処分量とは、ごみとして排出されたもののうち、
焼却、破碎、溶融、脱水、選別などを経ても、再利用できなかった廃棄物の量。
滋賀県の令和4年度のごみ総排出量約40万トンのうち最終処分量は4万トン。【図69】

滋賀県の令和5年度末の汚水処理人口普及率は、99.2%。内訳としては、下水道93.0%、
農業集落排水施設等4.0%、合併処理浄化槽2.3%、コミュニティ・プラント0.0%。【図71】